

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援 unico春日		公表日	2026年4月29日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		トイレ前に段差があり、躓いて転倒する児童が見受けられます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃や玩具の消毒を行い清潔を保つように意識しています。毎週末に窓や棚拭きも行ってあります。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の朝礼やリフレクション、毎月の運営会議にて目標設定や振り返りをする時間を設けております。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のリフレクションや毎月の運営会議にて意見交換や業務改善についての話し合いの場を設けています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施しております。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月支援の質を向上するための研修を実施しております。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画の更新時期にケース会議を実施し、全職員で検討しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月活動の立案をチームで行っています。子どもたちが「やってみたい」と発言があったことに対してもできる方法を考え、活動に組み込んでおります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動の内容や職員の立ち位置についてその日のリーダーが共有しチームで連携して支援を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日振り返りを実施し、職員間で情報の共有を実施しております。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様のご要望に合わせてサポートブックを作成しております。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	今後検討していきます。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時や連絡帳にて共有しております。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	親子イベントを年2回実施し、保護者同士の情報共有の場を設けています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	年2回親子イベントを実施し、保護者同士の情報共有の場を設けています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	連絡帳やがくぶりにて毎月の活動写真を配信しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		
非常時等の対	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	年2回避難訓練を実施しております。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	利用日の朝に服薬している場合は保護者様へ連絡帳への記載を依頼しております。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食物アレルギーがある児童については把握し、アレルギー食品を提供しないように努めております。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		

対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在は対象の児童がいないため、今後必要に応じて対応いたします。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 unico春日		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日		2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 1日		2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様が安心して通うことができる居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「明日もunicoに行きたい」と思うことができるよう一人ひとりの「ちがひ」に応じて安心して活動に参加できるよう様々な選択肢を提示して支援しております。 ・ワークショップで色々な経験や体験ができるような機会を提供しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの「やってみたい」を受け取り、何事にも挑戦できるような機会を提供してまいります。 ・毎日のリフレクションや研修を通して、支援内容の充実に努めてまいります。
2	保護者様が安心して相談ができる機会提供	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、親子イベントを実施して、活動や支援を見ていただいたり、保護者様と支援員でご家庭での悩みや情報交換ができる茶話会の機会を提供しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの方が参加できるように親子イベントの実施回数や内容の充実を検討して引き続き、実施をおこなってまいります。 ・保護者様が支援の様子を見学できる機会を検討してまいります。
3	多様な体験や学びに繋がる活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・教室外活動を実施して、様々な機会を提供しております。 ・公共施設での活動でマナーを知るきっかけとして、子どもたちの学習に繋げております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室外活動を通して、地域の方々と交流できる機会の検討をしております。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多職種による職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、子どもたちの様子や支援の振り返り等、職員間で連携を図る時間を設けております。より良い支援を提供するにあたりケース検討等の機会を増やしていく必要があると考えております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討の機会を増やし、事実と見立てを分けて、お子様の成長を軸に支援の振り返りを実施して、職員間で同じ認識を持ちより良い支援に繋がっていきます。
2	専門性を感じていただけるような保護者様との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチングをベースとしたコミュニケーションの実践や機会提供をおこなっておりますが、効果や成長を感じていただけるよう、日頃から細やかなコミュニケーションが必要だと考えております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様にも安心していただけるようにより一層細やかな情報共有や日頃のコミュニケーションに努めてまいります。 ・日々の出来事に加えてどのような支援をおこない成長があったのかを具体的にお伝えできるように努めてまいります。
3	療育的な効果を感じていただけるよう関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて関係機関との連携を図っておりますが、支援内容や子どもの様子をお伝えすることで留まることが多いのでunicoの療育や効果、具体的な成長を共有するなどの連携の工夫が必要だと考えております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や幼稚園、相談支援事業所などの関係機関へunicoの療育、期待される効果や成長について適宜共有していくことで連携強化に努めてまいります。